

# FR-V5500・FR-SS550F 工事説明書

設置工事の前に、この工事説明書をよくお読みのうえ正しく据付けしてください。  
なお、この工事説明書は、工事終了後に取扱説明書と一緒に必ずお客様にお渡しください。

※本文中のイラストはFR-V5500しております。

## 安全のために必ずお守りください

●ここに示した事項は、△警告、△注意に区分しています。



この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が軽傷を負う可能性や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

●イラスト(まんが)の横にある○マークは「禁止」、●マークは「指示」、△マークは「注意」を表しています。

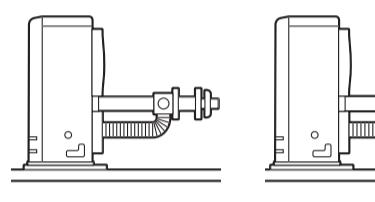
## △警告

★据付けや移設は、販売店または据付業者をおこなってください。  
お客様ご自身で据付けや移設され、不備があると感電や火災の原因になります。



禁止

★屋内給排気及び床下給排気禁止  
屋内または床下に排気すると、排ガスが室内に漏れて危険です。必ず屋外に排気してください。  
運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。



禁止

★給排気筒を確実に接続  
給排気筒を確実に接続し、しっかりと固定してください。風、振動、衝撃などで外れたりすると運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。



指示

★次の場所には据付けない  
火災や予想しない事故の原因になります。●温室、飼育室など人のいない場所。  
●付近に燃えやすいものがある場所。●水平でない場所、不安定な場所。  
●階段、避難口などの付近で避難の支障となる場所。●不安定な物をのせた棚などの下。  
●防火対策をしていないマントルピース。●可燃性ガスの発生する場所またはまる場所。  
●特殊な壁(内部に通気層があるものなど)を使用している場所。  
●高地(標高1500m以上)では使用しないでください。酸素濃度が薄いので不完全燃焼します。標高1000~1500mの場所では再調整が必要です。  
裏面の「高地仕様への変更のしかた」を参照して、調節してください。



禁止

●油タンクとの距離を離す  
油タンクはストーブより2m以上離して据付けするか、防火上有効な遮へいを設けてください。  
●屋外タンクでの使用を前提としておりますので、附属のゴム製送油管の長さは1mです。  
屋内用タンクを使用する場合は別売のゴム製送油管(※11070915・長さ3m)をご使用ください。屋内用の据置式の油タンクは、不燃材の床上に据え付けること。

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

# FR-V5500・FR-SS550F 工事説明書

## 標準給排気筒の取付け

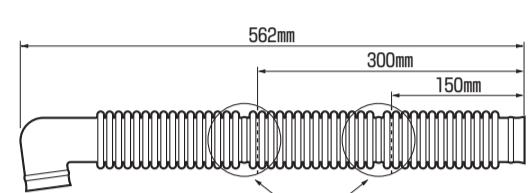
10 給気ホースをチャンバー室の給気口とストーブ本体の給気口に取り付け、ホースバンド(大)で固定します。

●排気用L形継手を断熱カバーでしっかりと覆ってください。

●排気用L形継手が露出していないことを確認してください。

●給気ホースは、排気用L形継手に接触しないように取り付けてください。熱で変形するおそれがあります。

●給気ホース長さは、給排気筒トップの取付け位置によって、カッターナイフ、はさみなどを使用して下図の切断位置で、切って調節してください。

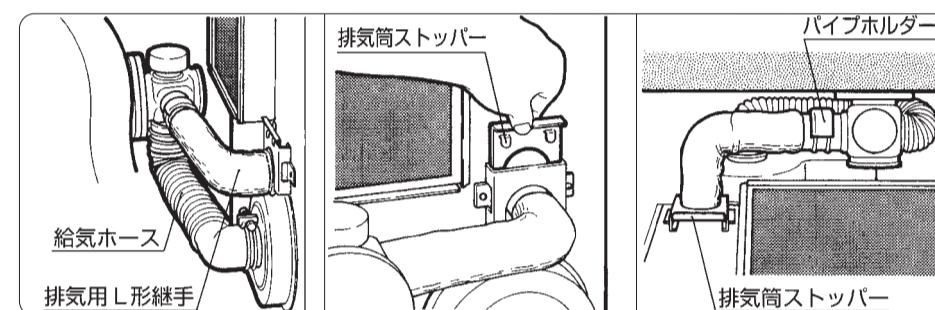


11 ストーブを静かに移動させ、排気用L形継手をストーブの排気口にはめ、ストーブに附属している排気筒ストッパーで固定します。また、チャンバー室側もパイプホールダーを使用して固定します。

●排気用L形継手を排気口にはめるとき、排気用L形継手のOリングに石けん水または水を塗ってからはめてください。

●給気ホースが排気用L形継手に接触していないことを確認してください。接触すると給気ホースが熱変形するおそれがあります。

●給気ホースがつぶれていないことを確認してください。



12 ①頂で軽くねじ込んで固定してトップ本体を、もう一度強くねじ込んでしっかりと固定してください。

●「上」マークを上側にすると約2°の傾斜がとれて、設置できます。

## 給排気筒の再利用時の注意

古い給排気筒は使用しないでください。必ず附属の給排気筒セットを使用してください。

## 4 試運転

●試運転は、ご使用者と一緒に必ずおこなってください。  
●取扱説明書「[5]据付け・移設について」の「[試運転]」に従って、運転準備、運転、消火の手順の試運転をおこなってください。

**お願い** ●ストーブの据付け工事が終わりましたら、必ず試運転をおこない、使用者に運転方法はもちろんのこと、日常の点検・手入れの方法、定期点検、故障・異常時の処置方法、連絡先等をお教え願います。  
●同梱の「取扱説明書」、「保証書」と共に工事終了後はこの「工事説明書」をお客様にお渡し願います。

## 5 廃棄するときの注意

ストーブを廃棄するときは、必ず灯油を抜いてください。  
リサイクルの支援となります。

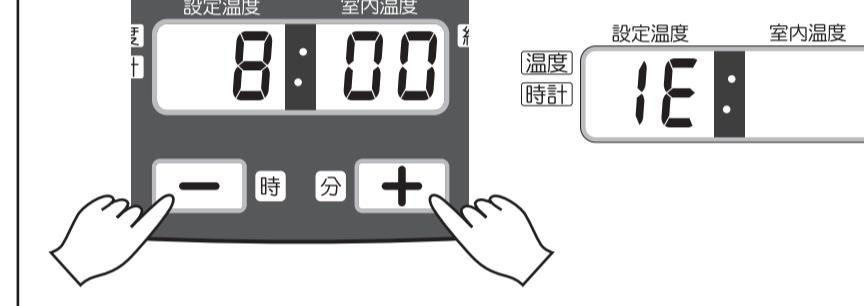
## 高地仕様への変更のしかた

(標高1000~1500mの場所でご使用の場合)

\*イラストはFR-V5500です。

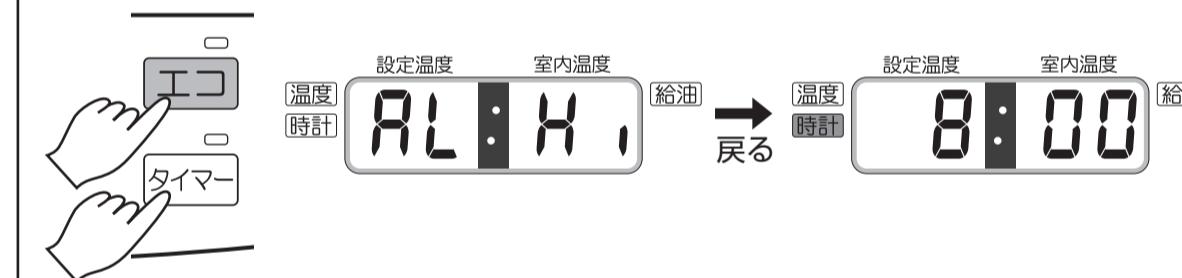
1. 運転停止中に「[−][+][−][+]」ボタンを同時に3秒押します。  
デジタル表示部が「1E」表示に変わります。

(室内温度が表示されていることもありますが問題ありません。)



2. デジタル表示部が「1E」表示中にエコボタンとタイマーボタンを同時に3秒間押し続けます。

ブザー音がしてデジタル表示部に「AL Hi」表示が3秒間点滅し、元の表示に戻ります。これで高地設定は完了です。  
一度設定をすれば電源プラグを抜いたり、停電があった場合でも高地設定は保持されます。



もし、高地設定を解除したいときは、1の操作からやり直してください。ブザー音がしてデジタル表示部に「AL Lo」表示が3秒間点滅し、元の表示に戻れば、高地設定の解除は完了です。



**お願い** 完全にコーキングしないと、雨水が室内や壁内に入ることがありますので、充分注意してください。

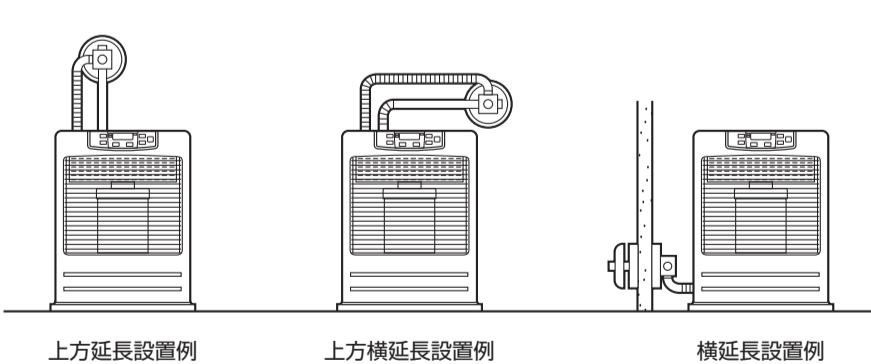
## 延長給排気工事の限界

■延長工事部品は、必ずトヨトミ純正別売品FFP-68A(1m用セット)、FFP-69A(2m用セット)を使用してください。

●給排気筒の長さは3m以下、曲がりは3箇所以下にしてください。

●標準給排気方式以外にもお部屋の条件によって、排気筒と給気ホースを延長して取り付けることができます。

ただし延長限界は3m以下で曲がり3箇所以下です。



**お願い** ●やけど防止のため排気筒には、必ず断熱カバーを装着してください。

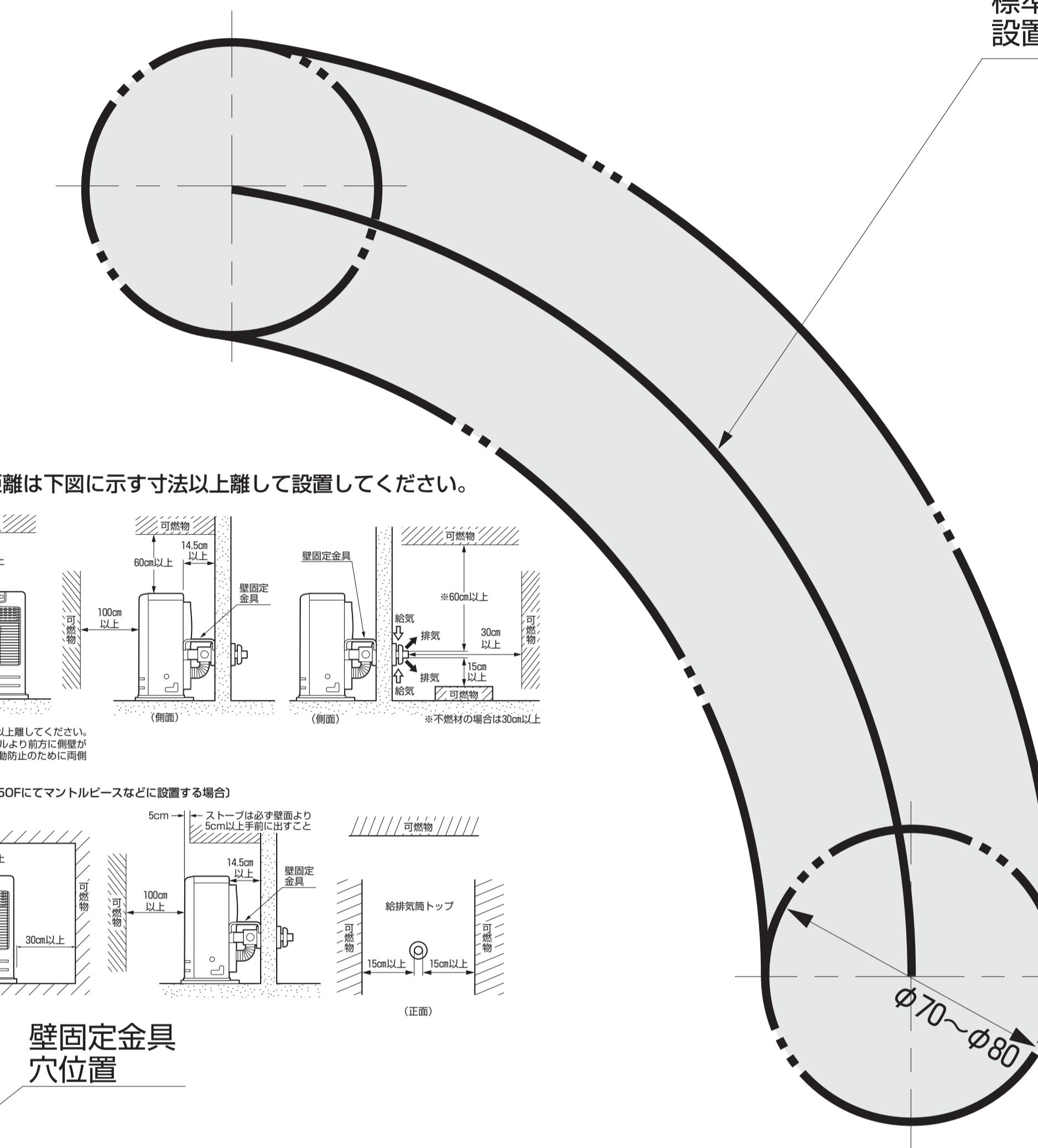
●壁や給気ホースに排気筒が接触しないように、パイプ支え金具で、壁などに固定してください。

## 集合煙突利用の禁止

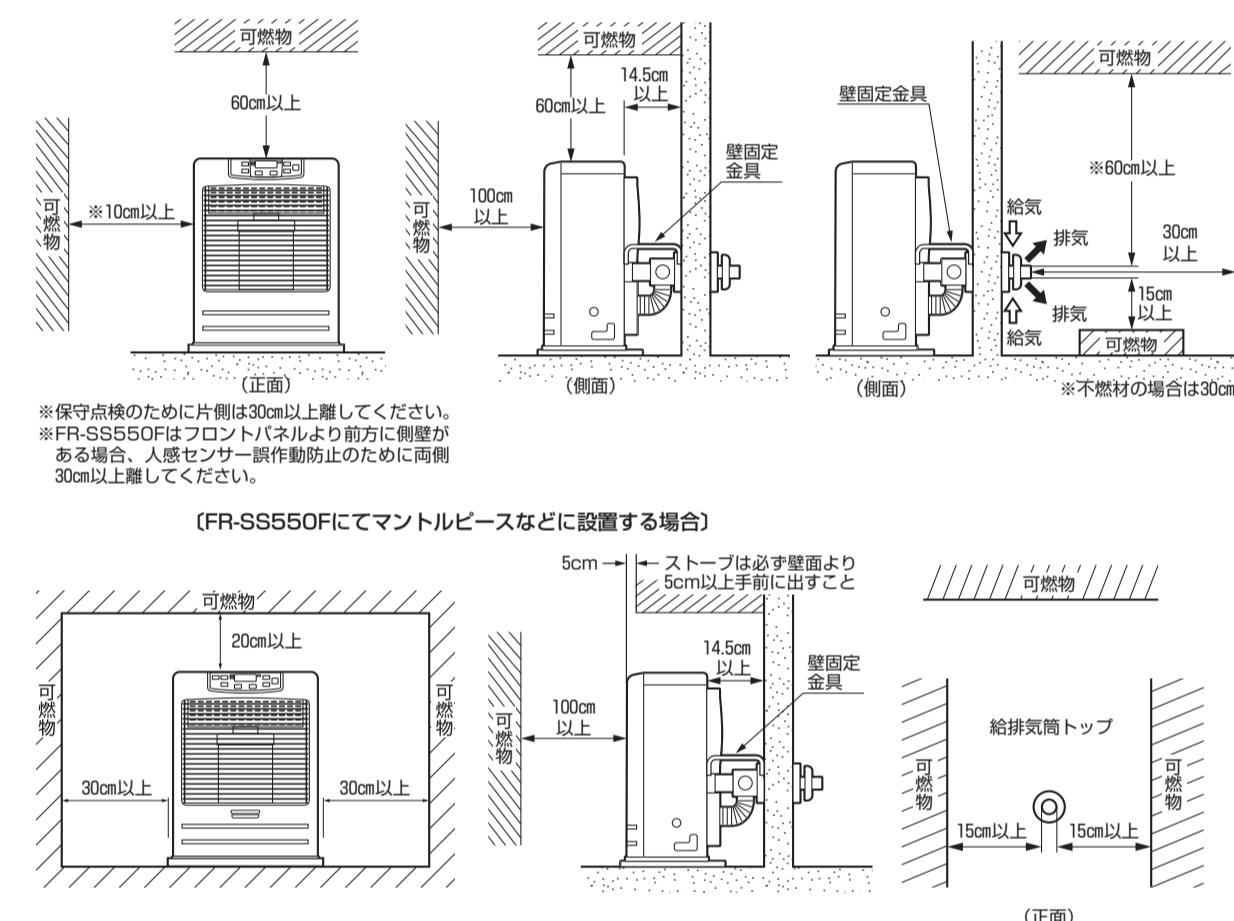
高層建築の集合煙突を利用しての給排気は、火災予防上危険ですから、絶対におこなわないでください。

# 給排気筒取付け型紙

## 標準給排気筒トップ 設置可能範囲



■可燃物との距離は下図に示す寸法以上離して設置してください。



壁固定金具  
穴位置

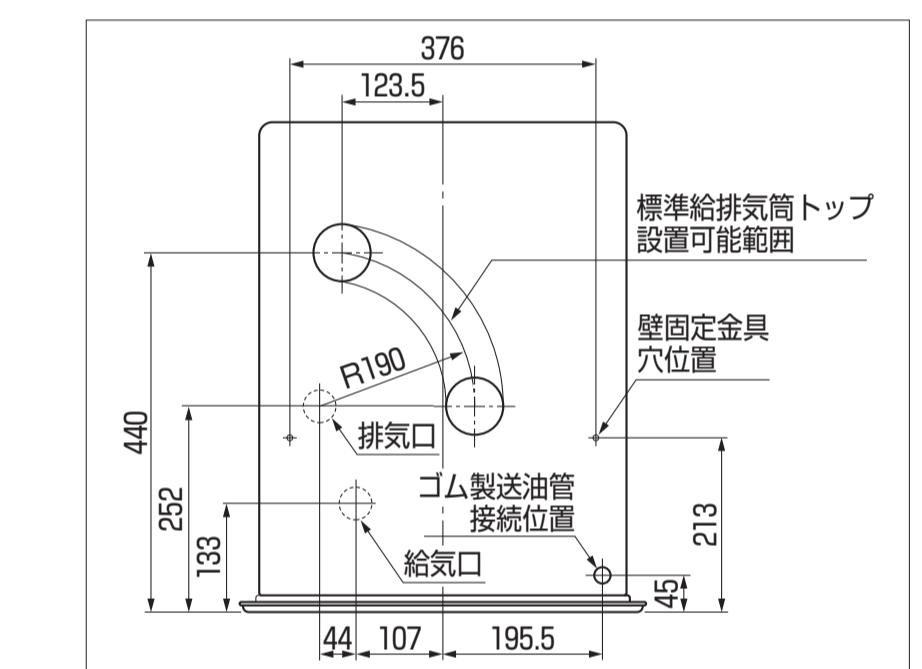
## 標準給排気筒の取付け

**注意** ●壁内の鉄筋・鉄骨・電気配線・ガス水道の配管を充分考慮してください。  
●壁の厚さが130mm以下、320mm以上のものは使用できません。

**指示** ●壁の厚さが130mm以下、320mm以上のものである場合は、別売部品を使用してください。

給排気筒の取付け、本体の固定方法は、裏面の説明書を良くお読みください。

●設置場所を決めてください。  
●給排気筒の穴あけ位置を決めてください。  
同時に壁固定金具の取付け位置のねじ穴にも印をつけてください。



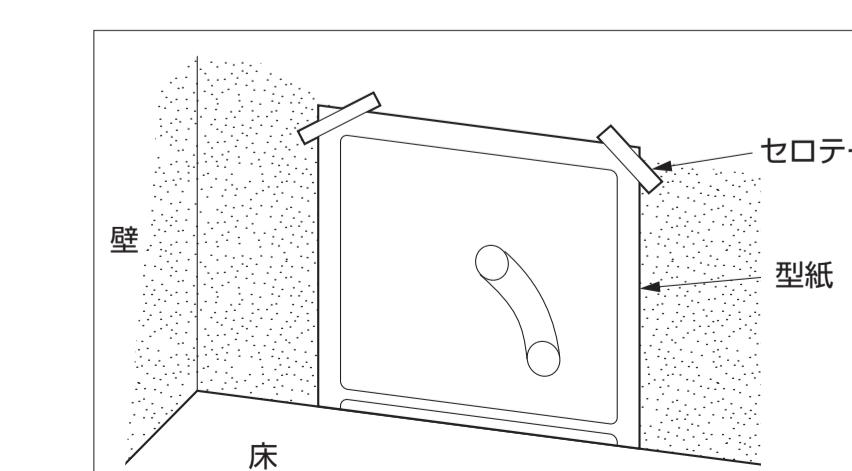
壁固定金具  
穴位置

## 型紙のご使用方法

1. 型紙の床面を床に合わせて壁に貼り付ける。

2. 壁固定金具が取り付けやすい位置を選びねじを取り付ける位置に印をつける。

3. 穴あけ位置に給排気筒の取付け穴をあける。



●壁に給排気筒の穴(Φ70~Φ80)をあけてください。  
室内側から室外側に向けて約2°の傾斜で下向きにあけてください。

